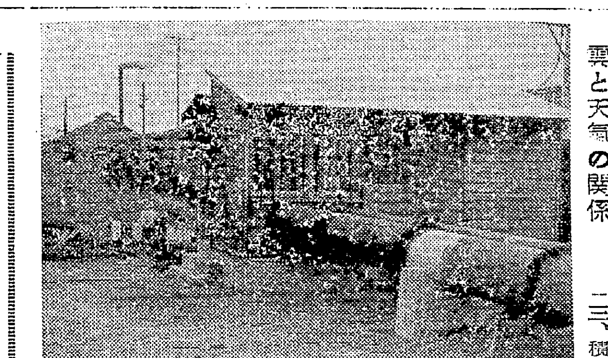
豪雨九州を襲う!

雨に備える知識いろいろ

二十五日朝から九州中部以北は梅雨前線の北上で豪雨に襲われ各地に被害が続出した。大牟田でも目抜通りの栄町をはじめ、各炭住街も被害が続出し、会社、組合では調査班を繰り出し対策をたてている。気象台はこの大雨が去つた後は本格的な暑さが来ると報じている。「みいけ」編集部では、素人の天気予報、靴の手入、レインコートの購入について調べてみた。



素人の天気予報

雨天でも西が晴れていれば雨は晴れてくる、九州の雨は関西へ関西へと動く。

雲と天気の関係

一、巻雲の現れるのは低気圧の現われる兆候、天気は不良となる
二、巻層雲も同様
三、積雲が出るのは天気良の兆候である
四、積乱雲の発達は雷雨の兆
五、積乱雲の頭が帯状の時は、ひようか夕立の降ることが多い
六、笠雲が山にかかると風雨

風と天氣の関係

一、天候が不良になつた時、風が北東でも南東でも、東がかつている時は回復せず、風が西へ廻れば回復する
二、雷雨が近よる直ぐ前には冷風が吹く
三、風が日没まで止まない時は、低気圧が迷つている証拠
四、山谷風が日々ある時期に、これが吹かない日は天気が変る

空と天氣の関係

一、月にかさが出ると雨、曇の事もある
二、朝の虹は雨の降る兆
三、夕焼の黄色は晴天の兆、少し黒ずんだのは雨の兆
四、明けがた星がつよく光るのは雨の兆

音と天氣の関係

一、日頃聞えない遠くの物音がはつきり聞えるのは雨の兆
二、泉や川の音がはつきり聞えるのも雨の兆

生物と天氣の関係

一、魚が水面に躍るのは雨の兆
二、雨蛙が低くとぶのは雨の兆
三、降雨が近ずけば家畜に不安の表情がある
四、雀が水を浴びると晴

ぬれ靴の手入

ぬれ靴の手入れは、火にあぶつたり、太陽の直射光にあてるのは禁物、革がコウバルのでヒビ割れがしていたみが早い。新聞紙か古新聞をつめて靴を横にしてかげ干すれば、水分は蒸発して靴をいためずにすむ。ぬれたあとの靴は毛ぶらしはよくない。フランネルの布がよい。また甲革の硬くなつたとき、黒革に限つて動物性の脂肪をぬるとよい。

レインコート

この頃ビニールやラバーシルクなどのレインコートが流行しているが、日本のように湿度の高い国では、空気の流通が悪いからあまり衛生的とは云えない。それに見た目はよろしいが対久力も弱いので不経済である。結局バーバリー・コートがわが国では一番適していると云えよう。これはギャバジンの生地に通気のある防水薬品を染めこませたものであつて、綿と絹とのバーバリーがある。

レインコートは洋服の上に着るものであるから、サイズはゆつたりとしたものをえらび、特に脇の下や胴廻りは十分ゆとりのあるものがいい。スタイルにとらわれると傷みやすい。生地は目が細かく(表裏とも)防水薬品が完全にその効力を発揮するものでなければならぬのは勿論だが、使用しているうちに襟などへ狂いがくるのはみつともないから、襟しんの吟味は念を入れて頂きたい。

レインコートの生命は防水であるが近ごろはシリコーン防水加工といわれる方法があつて、古い防水加工にくらべて非常にすぐれている。

×　×

婦人のレインコートも男子の場合と本質的に大差がない。ビニールラバーシルク絹バーバリなどが主たる生地になつているが、絹を使つたものは防水薬品がうまく浸透しないことと、染色が十分に出来ないので、色のあせる率が多いから余りすすめられない。この頃の流行型は襟が大きくて、その襟先が派手にとがつている型のものである。ダブルはバンド附きとなつているが、何れにしても胴廻りと脇下のゆつたりしたものを買わないと破損しやすい。頭帖(フード)のついているものがおきまりになつているが、傘をさして頭巾を後へぶら下げているのはあまりかつこうのよいものではない。

＝映画紹介＝

じつくり楽しめる映画

『大菩薩峠』

時は幕末、所は甲州街道一の難所といわれる大菩薩峠で、机竜之助(片岡千恵蔵)が巡礼姿の老爺を白刃一尖切つてすてるところから物語ははじまる。老爺の孫お松を守つて竜之助を狙う怪盗七兵衛(月形竜之介)。奉納試合で殺された兄文之丞の仇、竜之助を探す宇津木兵馬(中村錦之助)。「魔剣〃音無しの構え〃を破るはただ一つ、心澄まし剣を動かさず相手をきれ」と兵馬に秘法を教える師の島田虎之助(大河内伝次郎)。一方竜之助は殺した文之丞の妻お浜(長谷川裕見子)をわが妻とし一子をもうけたが、邪剣のあがきに陥ち、四六時中わが身をさげすみ、剣のあがきと苦悩は大きくなるばかりであつた。

浪の底深く虚無感をたたえた武士竜之助を中心に、多彩な登場人物がドラマを織りなしてゆく。兵馬とお松の恋。京島原に売られるお松。そしてまたお松と兵馬のめぐりあい。それを見守る七兵衛。だが竜之助は妻お浜をわが手にかけて殺し、彼の組した新徴組とともにますます窮地に追いつめられていつた。そしてようやく吉野山中に逃げのびた新徴組は、兵馬の投じた火薬で四散し、竜之助は両眼を焼いて失明し、その魔剣はますます魔性を帯びていつた。(第一部)

原作はいうまでもなく中里介山の大長編。内田吐夢監督は、正道を失つた一人の武士にスポットをあてながら混乱の時代に生きた人間像を描き出そうとしている。もちろんこの第一部はまた話の発端だけが意欲は充分うかがえる。とにかくじつくり楽しめる本格的時代劇の登場といえよう。シネスコの大画面が雄大味を出している。色彩も秀逸。脚本猪俣勝人。(三十一日より東映で)

裸の街

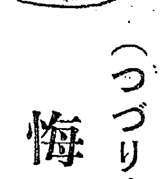
人の好いというだけで、生活力のないレコード屋夫婦(池部・淡島)をお親切ごかしにだまして夜逃げさせ、トラの子の権利金をとりあげて知らん顔。なぐられようがののしられようが、押入れにかくした金包みがふくらんでさえいればいい。ひそかにとり出した札束の山をなでながらニタリニタリ笑つているのが森繁久弥が演ずる高利貸である。

まゆを太く下げ、無精つたらしいひげをたくわえ、いなか者然としたかつこうで金のにおいをかぎ回る姿は、ふてぶてしい野良犬みたいな存在である。

客席にはこの高利貸(森繁)の顔を見ただけで笑い声がおこるが話が進むにつれて笑いが少くなり喜劇とリアリズムを混ぜた森繁の演技に圧倒される。

この森繁が金のために結婚する相手が杉村春子、街のボスで若い女(淡路恵子)のためこの因業な高利貸から金を巻きあげるのが志村喬でベテラン揃い。

(つづり方教室)



悔

新勝立町　一主婦

かーツと、まぶしいまでひどく照りつけたかと思うと真黒い雲で影をつくり、それでも真夏の夕方はなかなか蒸し暑い。スーと涼しい風が時おり家の中へも吹いて来るが食事中は全く汗の雨。食事をガサガサに食べおわつた二男のいたづら坊が、どこからか底のくずれかかつた木箱を見つけ出し、混虫するから中の方を何とかしてくれと、まだ食事中の皆の前に持つて来る。私はこのあいだ掃除している時棚の上に五、六寸角程のボール紙のあつたのを思い出し、それを底の方へ何とか工夫してと、やつと食べおわつた主人に頼む。

私が何かと片づけ物をしている間にすつかり箱はでき上つたらしく二男坊は一人悦に入り午前中採取した四、五匹の虫を行儀よく並べ汗で汚れた顔を満足そうにニヤニヤさせながら私のそばえ見せに来る。やつぱり男の手でないと、こんな仕事はよく出来るものではないとなかば主人に感謝の気持でほつとする。

やつと一風呂浴びて、やれやれと風通しのよい縁側え腰をおろすと長女がいきなりボール紙は知らぬかと半分は泣き声に上づつた金切声で尋ねる。棚一ぱい探したらしく二、三の紙や本が落ちかかつていた。ハツとしたが、いつもにないあわて様に、つい腹立しくなり親の虚勢とでも云うか「あれ位いの物は店え行つたらいくらもあるのに、そんなにおこるものがあるか」と高飛車に出た。長女はもう泣きかけている。あれがなかつたら明日洋裁は出来ないと云う。私はいまさら、二男坊の混虫箱に敷いてあるボール箱を見直したがいくらか小さく切つてキツチリでき上つているものをどうしようもなかつた。

仕方なく近所の店を二、三尋ねたがあれと同一の物は見当らなかつた。遠くの町まで行かねばないか知らと時計を見ると、もう九時過ぎである。一寸ためらつたが思い切つて夜の道を歩き始めた。環境をおそれてめつたに夜は外え出ないのだが……店のない所はさすがに暗い、でも店は明るく照らしていた。あの店に尋ねこの店に入つたが一向に買い出せない。このまま、帰つたら長女は何というだろう、どんなにおそくなつても買いださなくてはと、足を早めるガラガラと店を閉めはじめた。いくらか気がもめる。思春期から成長期がにじみ出る。しつとりと汗え伸びている娘に何故あんなに堅く当つたろう、自分が悪かつたと十二分に認識しながら、つい大きい声を出して長女の心を刺激させ品物の手に入らない、あせりと、悔とが全身に充満し、足がふるえ勝ちだつた。

考へながら歩いているうち、とうとう繁華街まで来てしまつた。ここまで来たら専門の店え尋ねたいと、かける様に行つて見るとやつぱり駄目、今戸が閉つたばかりらしい、まだ二、三、戸を閉めかけている所もあつた。まだ人通りはかなりあつた。ハテどうしたらよかろう、ボール紙の代金だけ持つて出てきて物が手に入つたとしても帰りはどうなるだろう、戸迷つているところえ路地から若い女の人が出て来た、私は哀願する様に事細やかに事情を話すと、その若い女の人は紙屋の店員さんだつたと見え「暫く待つて下さい」と奥の方え引込んだ、待つ事なくして女の人はボール紙を手にして出てきた時は安心と悦びで目頭があつくなつた。厚く礼をのべると、交す足も軽くなる。思つたより紙代も安くバスへものれる、夜空は星が一ぱいだつた、大きい二つ目のタクシーがスーツと走り去る。

夜の町はよく見当がつかず、でも停留所の文字を目当に走る様に歩いた。

妻居ぬ夜子のおとなしく林ゴかむ

坑口慰問　　石橋三根志

おんなの掌に煙草ひかりて梅雨暮色

梅雨の海おもく多島岳晴れいたり
藤本昭春
落髪の帰省子弱く土間に咳く
虹消えて急に黙する人と坐す
谷口周
選炭場よりボロ貨車発たす帰省かな
帰省子に雨の餞別追いかけて
碩照幸
亀甲乾き手榴の亀の首立つる
梅雨晴れ遂しニュース入組む世にありて
高木坑衣
松蝉や母来て療衣白く乾す
遠花火はしやぎをりて咳怖る
佃康子
紫のガウン明るき梅雨の部屋
磨の色鮮やかに梅雨あがる

＝圓紅＝

七月俳句会

七月十四日、四山鉱友愛クラブで開催。課題「帰省」及び夏季雑詠にて、それぞれ作品を互選、鼎衣津根を両氏を中心に批評と検討の論戦を展開、暑さを吹飛ばしそう快な午後を楽しく過した。

帰省する歩巾地炎をひらめかし　永野鼎衣
舗装路の熱風どぶの川に触る
田中津根を
炭坑夫に日にちが乗春また去り
水汲むや青嶺垣なす帰省子に
高田幸月
貧の父子に囲かれて梅雨長し
支援スト梅雨の鶏舎の雛騒ぎをり
馬場富二
帰省して母校のアカシヤ咲き匂ふ
一齊に鳴れる風鈴一つ買う
清本はるき
胸張りて帰省の星の乱れなし
基地晴るる陽にかけ狂う梅雨の蝶
緒方二郎
端居して偏愛の胸悔ひ充つる
愚痴十年カンナ一だの庭愛す
入江鴻史
熱の子の安き眠りや朝の雷

囲碁教室

布石線　(19)

前回述べた布石線の問題をある高段者の碁から取材してみました。

第一図において黒1にたいして白2と応じたところです。

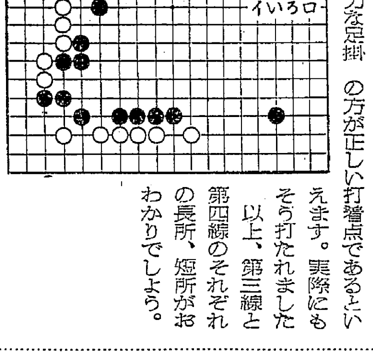
さて、次の打着点は右辺の「い」の星か又星下の「ろ」であるということは衆目の一致するところですが、そのいずれを選ぶべきでしょうか?

前回に、第四線は勢力線であり、第三線は地域線であると述べましたが、この場合も「い」の星を選べば将来「ロ」とスソを狙われる弱点があり、又「ろ」と打てで「イ」と帽子されて中原の黒模様を消す有力な足掛りを与えることになります。

ところでこの碁では、黒は中央の大模様を重視すべきで、このことから考えると「い」の星の方が正しい打着点であるといえます。実際にもそう打たれました

以上、第三線と第四線のそれぞれの長所、短所がおわかりでしょう。

オ一図



長屋太平記　中村かめお

今週の映画

☆セントラル　(31-6)　西部の兄弟、波止場のネズミ
☆太陽館　(31-6)　大当り三色娘、わが胸に虹は消えず
★大天地　(31-6)　抱かれた花嫁、月下の若武者
☆東映　(30-5)　大菩薩峠、怪談番町皿屋敷
★銀星　(31-6)　東京上空三十秒、次はお前だ
☆大牟田名画座　(31-6)　インカ王国の秘宝、陽気なドン・カミロ
★グランド　(31-6)　ベビイドール、地獄への待伏
☆荒尾名画座　(31-6)　インカ王国の秘宝、月下の若武者、紳士はブルーネツト娘と結婚する